

平成27年度美作市立勝田中学校 学校評価書

校長 西村 睦美 印

1 自己評価

I 評価結果
(別紙参照)II 分析・改善方法
【生徒評価】

アンケート結果から、本校の生徒は学校のきまりを守り、あいさつもよくしていると感じており、学校行事や部活動を楽しみにしていることがわかる。実際の学校生活でも、チャイムスタートが完全に定着。3学期の時点では、服装面や登下校マナー等でも指導を要する生徒はいなくなっている。

また、本年度は長期欠席が激減しており、30日以上長期欠席者は1年生の1名のみである。その1年生も美作塾への登塾を9月から開始し、2月の登校日数が12日/20日となった。美作塾の後、本校に登校するパターンも身につけ、小学校3年後半から続いてきたひきこもり状態から脱することができている。体調不良以外では遅刻する生徒もいない。

引き続き、規範意識と社会人としての礼儀やマナーの向上を目指して、教員と生徒が一体となって取り組んでいきたい。

「家で授業の予習や復習をしている」に対して、「あまりあてはまらない」と答えている生徒が全体で半数を超えている。宿題で復習を課題として出しているが、その家庭学習を復習と捉えていない生徒がいたと思われるので、来年度は「宿題・復習や予習をしている」と質問する。

予習・復習を定着させるための改善方法としては、①授業の中で工夫すること(何を予習して、何を復習するのかを明確にわかりやすく提示する、予習や復習などの家庭学習に意欲をもたせるようにわかりやすく向上心をもたせる授業を行う)、②「デイリーワーク」「ウィークリーワーク」など家庭学習の課題を日常的に出すこと、③宿題を完全に出させること、の3点を重視する。

「相談できる先生がいる」「先生は自分がした努力を認めてくれる」に対して、「あまりあてはまらない」と感じている生徒が約3割いる。改善方法としては、教員が個々の生徒と関わる場面や機会を意図的に増やすこと、勉強や人間関係などについて生徒が持っている困り感を敏感にキャッチして早期に適切に対応すること、生徒が努力したことや頑張った成果をさまざまな形で顕彰できるよう工夫すること等により、生徒に「相談してよかった」「先生が分かってくれている」と実感できる動きを見せる。

教員がやったつもりでも、生徒には伝わっていないことが多い。また、生徒の気持ちと教員の指導がずれ違っていることも多い。こうした両者のギャップを埋めるためにも、見える形と動きで理解させることが重要である。

【保護者評価】

すべての質問に対して「よくあてはまる」「あてはまる」をあわせた肯定的意見が大半である。なかでも生徒がきまりを守ってよくあいさつしていると評価している。このことは、生徒自身ががんばっていると感じている結果と一致しており、学校として大変、励みになる結果である。

「楽しくわかりやすい授業がおこなわれている」「生徒に学力をつける取組を積極的に行っている」に対しては「あまりあてはまらない」と答えている保護者が2、3年で約4割になっている。

本年度は学力対策として多くの具体策を打ち出し、実際に生徒もまじめに取り組み、生徒の教科アンケートでも授業が「わかる」という肯定感が高いにもかかわらず、保護者は否定的である。理由として保護者が我が子の学力不振や進路に対して不安を持っていることの表れと考えられる。

改善方法として、一つには学校の学力向上に向けた取組が家庭に伝わっていないことがあるので、学校に来ていただく機会を増やし、学校からの便りや文書を読んでいただいているかの確かめができるよう努め、取組を正しく知っていただくようにする。

3学期には、1、2年の学級懇談会を開催して、生徒の学力実態や取組の様子、生活面の具体的な様子などをお話しする機会を設けた。どの学年も保護者はほとんど全員参加でとても有意義な会となった。

このような保護者と共に子どもたちの学校生活について語る場を今後も積極的に設けていきたい。そして学力をつける学習の指導になお一層、徹底して取り組み、課題の完全提出を小学校とも連携して進めたい。そうした取組を土台として、子どもの可能性を伸ばす教育に対する家庭の理解と協力が得られるようにする。

【教職員評価】

本校生徒は素直で、言われたことにまじめに取り組むことができていると評価している。また、行事や生徒会の活動でも自分の役割を果たそうとする気持ちで活動しているし、授業や宿題などの学習や書く活動で次第にがんばる姿勢が表れてきている。

課題としては、少人数のため、視野が狭く、心や気持ちが育っていない面があり、社会的知識や考え方が貧弱な傾向がある。また、耐性が弱く、困難に打ち克とうとするたくましさに欠ける側面がある。

学習面については、向上心が希薄で家庭学習の習慣や学力の基礎・基本が定着していないために、学習意欲が乏しい生徒が多い。

家庭や地域については、全体として学校に協力的であり、苦情はほとんどない。子どもが前向きに学校で過ごしていることに好印象を持っている。保護者によっては学校のことに関心が低く、参観日やPTA活動等への参加が少ないので、学校の教育方針や指導の在り方について理解が乏しく、誤った認識も見受けられる。対策として、学校の取組を今以上に積極的に発信すること、参観日や懇談会等で生徒の学校生活を理解できる機会を増やすことなど、保護者が一面的な見方をしないよう、工夫する。

2 学校関係者評価委員名

豊田 成之（学校評議員） 江見 文夫（学校評議員） 旦 静（学校評議員）

安藤 功（学校評議員） 岡本 直子（学校評議員） 新免 美紀恵（学校評議員）

3 学校関係者評価

校外で見る中学生の様子や態度が落ち着いているし、授業を受けている姿勢・態度が以前と違い、教室の空気も変わっている。先生方が細やかに熱心に取り組んでおられる。書くことが日常になっていることとてもいいことだ。今の取組が何年か後に必ず成果が出ると確信している。

少人数を生かした教育で一人一人が伸びることや保幼小中を連結した「かつたっ子15の春プロジェクト」の取組実践は勝田の教育を良い方向に導くものだと感じている。勝田の子どもたちの課題についてプロジェクトを通して考えていけると思う。

子どもがいろいろなことに取り組む姿勢が変わってきたと実感している。やった結果が自分の力になることがわかり、自然に自分からやろうとする意欲が表れてきている。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- ☐ 豊かな感受性と思いやりを育み、いじめを許さない強い心・意志を持たせる。
- ☐ 堅固な規範意識とたくましく粘り強い姿勢を培い、自律と責任を身につけさせる。
- ☐ 学ぶ意欲を育てる授業と家庭学習の習慣形成をつけ、夢に向かって向上する心を育てる。
- ☐ ICT教育と人権教育の研究を柱に、教職員の教育実践に関わる力量を高める。
- ☐ かつたっ子15の春プロジェクトを推進し、学校・地域・家庭と連携した指導を行う。